和歌山県立美術館のあゆみ

昭和38年４月～昭和46年３月

和歌山県立近代美術館

発刊のことば

和歌山県立美術館が昭和３８年３月１７日に開館して以来８年の歳月を経ました。

この間、多くの展覧会を企画して、海外あるいはわが国のすぐれた美術作品を観覧する機会を提供するとともに、郷土が生んだ美術作家の業績を紹介し、また美術館友の会等の普及活動を通じて、地方文化の向上に、いささかの役割を果してまいりました。

さらに、昭和４２年１１月には収蔵庫を建設し、本県関係作家の作品の購入、あるいは所蔵家や作家のご好意によって、漸次、コレクションの充実をはかりつつあります。

史跡和歌山城二の丸跡にある館の位置は、都市の中とは思われぬ閑静な環境に恵まれていますが、惜しむらくは交通の便悪く、来館者に不便をまねいている点から、昨年１１月、県民文化会館が建設され、その一階に移転し、その名も和歌山県立近代美術館と改め、新たな飛躍のときを迎えました。

この機会に本館創立の経緯と過去８年間にわたる県立美術館の足跡を振りかえり、こんごの美術館活動に資するために、本資料を刊行する次第であります。

昭和４６年　４月　１日

和歌山県立近代美術館
館長　渡　辺　光　男

目　　次

1. 和歌山県立美術館の足跡

はじめに …… 3

施設の建設 …… 3

設備概要 …… 3

建設費 …… 3

開館後のあゆみ（事業概要） …… 4

2. 展覧会の開催

イ　主催及び共催展覧会 …… 8

ロ　貸館による展覧会 …… 13

3. 所蔵品の収集状況 …… 25

イ　別表1　館所蔵美術作品収集状況一覧表 …… 25

ロ　別表2　所蔵品目録 …… 26

ハ　別表3　寄託品目録 …… 32

4. 美術館友の会活動状況 …… 34

(1) 美術鑑賞講座

(2) 洋画実技講座

(3) 写真実技講座

(4) 陶芸講座

(5) 日本画実技講座

(6) 臨時講座

5. 美術館運営協議会 …… 38

附　和歌山県立美術館運営指針（昭和42年6月） …… 40

県立美術館職員表 …… 45

1. 和歌山県立美術館の足跡

はじめに

戦後の和歌山の美術運動は昭和22年にはじまる「和歌山県美術展覧会」に端を発し、始めは洋画だけであったが翌年日本画が、のち書道、写真等が加わり、今日8部門にわたる総合美術展覧会として、美術界の登竜門的役割を果している。

一方、各団体やグループの美術展も日を追って盛んになり、展示施設をもたないことが、県下美術界のより以上の発展をはばむ一因ともなっており、また一般の美術愛好者にとっても、和歌山に古今東西の名作美術品を招くことができないところから、〝和歌山に美術館を〟という願いがたかまり、美術館建設の胎動期をむかえた。

昭和28年、美術関係者による美術館建設運動がおこり、在県洋画作家等による美術館建設のための作品寄付という盛り上りをみせた。

県美術家協会が県知事に陳情し、県展の開催を中心とする美術作品の展示施設建設の内諾を得た。

36年秋、たまたま旧県議会議場であった県農協連会館が改築されることになり、これを美術館に転用する案があったが、検討の結果、美術館は鉄筋コンクリート造りで新築することになった。

施設の建設

昭和36年秋、美術館建設委員会が設置、県側10名と県美術家協会側10名の委員で組織され、県企画部総合調整課が美術館建設の事務を主管することになった。

同年11月、建設地を旧和歌山城二の丸跡の県立図書館前に決定し、12月には建設委員会が北陸地方の各美術館施設を視察した。

37年5月、鉄筋コンクリート造り地上2階地下1階建築延面積1,391㎡の設計が完了。

同年7月文化財保護委員会より史跡現状変更許可を受け、同月起工。　翌38年3月17日、工事竣成と同時に開館の運びとなった。

設備概要

敷　地	約　990㎡（300坪）
建築面積	394㎡（119坪）
同延面積	1,391㎡（421坪）
構　造	鉄筋コンクリート造り、地上2階　地下1階
附帯設備	冷暖房換気設備　　ステージに能舞台付設
展示室	地階中展示室　191㎡（58坪）　壁面　46m

1階中展示室　１９６㎡（５９坪）　壁面　５４m

1階小展示室　４８㎡（１５坪）　壁面　１６m

2階大展示室　３９０㎡（１１２坪）壁面　７３m

パネル（高さ２m）５５枚（巾 2.3m　1.9m　1.5m各種）

建設費

主体工事	41,350千円
電気工事	5,698〃
給排水衛生工事	1,330〃
換気冷暖房工事	11,060〃
小計	59,438〃
設計委託科	1,200〃
備品費	4,550〃
造園費	1,420〃
能敷舞台	1,240〃
事務費	565〃
小計	8,978〃
合計	68,416〃

開館後のあゆみ（事業概要）

・昭和３８年度

開館記念展として「県美術家協会」（略称美協展）を創設し、3月１７日から２５日間に亘って開催、以降毎年開催を例とする。

７月には初めての有料企画展として「第一回郷土出身大家川口軌外展」を開きその出品作品「少女と貝殻」を、館所蔵品として譲り受けた。

秋のシーズンには文部省巡回展「明治・大正・昭和名作美術展」を開催、非常な反響を呼び３８,０００人の入場者を見る成果をあげた。

引続いて従来各所の会場で転々と開いていた県美術展（略称県展）も今回からは美術館で盛大に開催、関係者に喜ばれた。

館発足当初専任館長を置かず、副知事が事務取扱として兼務し、職員も充足されない上、不慣れのため支障はあったが、初年度として、美術館創設の期待にこたえる成果をあげることができた。

・昭和３９年度

４月早々「紀州陶磁器展」で郷土に伝わる工芸を紹介。

秋には昨年に引続き文部省の「明治・大正・昭和名作美術展」で３０,０００人を超える入場者を迎えた。

又３月には郷土の生んだ文人画家「祇園南海展」を有料展として開催。

・昭和４０年度

４月に専任館長発令、５月開催の「芦雪名作展」は県内所蔵の長沢芦雪の作品を展示したが、非常な好評を博す。

第２回郷土大家展として、「日高昌克展」を７月開催、水墨芸術を紹介。

秋の「近代洋画名作展」は、県内所蔵家の作品を借用した洋画展であったが、予想外の不振であり、専門学芸員の必要を痛感させられた。

美術館と県民大衆の中の美術愛好家との直接の繋りをもつ必要と社会教育の立場から友の会の組織づくりは開館以来の宿願であったが、ようやく機運熟して１０月３１日発足し、同時に「美術館だより」の発刊を企画、１２月号を創刊号として、以降毎月欠かすことなく発行を続けている。

年度がまたがる関係で、館の直営とせず、開催委員会が主催した「ダリ、シャガール、ビュッフェ版画展」は、予想以上多くの入場があった。

・昭和４１年度

石垣栄太郎画伯の遺族から作品の大量寄贈を受け、「第４回美協展」と併設の「石垣栄太郎遺作展」を開催した。

６月には国の補助金を受けて「日本伝統工芸秀作展」を誘致開催し、入場者は少なかったが好評を受けた。

引続いて、開館当時から念願の「川端竜子展」を開催できることになり、企画準備を進めるうち竜子が４月に逝去されたので、時期を遅らせて開催の運びになったわけである。竜子が、和歌山市の名誉市民を受け、その記念の意味もあり、竜子の単独展としては、始めてのことで、非常な反響を呼び、入場者２１,０００名を超える盛況であった。

本展は、館直営でなく開催委員会によるもので、収支精算の剰余金をもって基本財産とする財団法人川端竜子顕彰会（事務所和歌山市役所）を組織して「竜子賞」を毎年県下の美術教育優秀小・中学校に贈る事業を続けている。

秋のシーズンには、開館以来の懸案であった国立西洋美術館の「松方コレクション展」誘致が実現、絵画、彫刻の名作を全館に展示、後援は、県、市など１０団体、新聞通信１３社の協賛で、県下を松方コレクション展一色に塗りつぶす盛況であった。２１日間の会期中入場者総数約８万人を

数えたことは、この地での展覧会としては正に空前のことであった。

更に引続いて「第２０回記念県展」には、始めての地方巡回展を田辺市に開く等、各種の企画をもち、大きな盛り上りを見た。

この年度は、画期的な行事の連続で、発足後日浅く、十分知られていなかった美術館の存在が、県民の認識を深め、美術への関心が急速に高まった多彩な年であった。

・昭和４２年度

最近、美術の世界で盛んになってきた新しい造形の傾向を県民に紹介するため、「国際青年美術家展」を招き、年度当初に開催、更に同じ傾向の「アンデパンダン展」を創設開催した。

館の創立以来、その運営は、不文律によって行われてきたが、一応軌道に乗った段階であるので、館運営の基本理念を明確にし、将来の目標を定めるため「和歌山県立美術館運営指針」を伺い定めの形式で制定した。

秋には、開館五周年記念として、清荒神清澄寺の所蔵品による「富岡鉄斎展」を開催、清澄寺および大阪読売新聞社の絶大な協力により、又今回始めて会場内で、マグシーバー・ガイドを使用する等で鉄斎芸術を紹介するにふさわしい優秀な展覧会となった。

本館には完全な収蔵庫がないため、所蔵作品の保存管理に支障があったので、４１年度予算1,０００万円をもって建設に着手、工事が遅れ完成が本年１１月になった。

２月に収蔵庫完成記念として、「現代洋画大家展」を開催、3月には郷土出身文人画「桑山玉州展」をもったが、季節の関係もあり、あまり多くの入場がなかった。

・昭和４３年度

館発足以来、経営的な面については運営委員会、専門的な事柄については専問委員会の二つの委員会組織があり、諮問機関として館運営上の協力を得てきたのであるが、今日、当時と事情も変り、二つの組織の必要性もなくなり、更に強力な民間有識者との連繋協力を願うため、新らしく運営委員を委嘱して、運営協議会を発足した。

４月から５月へのゴールデンウイークに、吉川観方コレクションによる「浮世絵総合展」を開催、アトラクションとしてモデルによる浮世絵風俗衣装の着付けを実演した。季節がよかったためか、予想外多くの入場があった。

９月に労政課が、「勤労者美術展」を創設開催、続いて開催の「扇絵」は、京都中村松月堂所蔵の古扇面絵を中心に、態野速玉神社の国宝檜扇の出品もある異色の展覧会であった。

秋のシーズンは、明治１００年記念「郷土作家回顧展」として、明治から現代までの物故作家の作

品を集め展示すると共に「郷土の美術家」を編集刊行した。

・昭和４４年度

館の学芸員も逐次充実されたので、展覧会は、単に作品の展示に終ることなく、郷土出身の対象作家を研究的に深く掘り下げ、それを世に紹介する態度で企画することになり、その始めての試みとして「保田竜門展」を開催した。この展覧会も館直営とせず、開催委員会の主催として１１,０００人を超える入場者があった。展覧会終了后、遺族から多くの作品の寄贈を受けた。

秋の事業として、本館としては３回目の文化庁巡回展「明治・大正・昭和名作美術展」を開催したが、入場者１０,０００人を割る不振であったことは、前回にくらべ、作品のレベルが低かったこと以外にも原因があるように思われる。

この年度最後の企画展として、京都市美術館と共催で、同館所蔵品による「京都の近代日本画展」を開催、入場者2,０００人に達しない不振であった。

・昭和４５年度

４月・５月の連休にかけて、吉川観方コレクションによる「日本女装展」で開幕、衣裳、髪型、履物により日本女装の変遷状況を展示、併せてモデルによる時代衣裳着付の実演をしたが、入場者は案外少なかった。

６月に「美協展」、７月には「友の会展」、９月に入って「勤労者美術展」と恒例となった各展覧会が続いて、城内の旧美術館での展覧会は全部終了した。

１０月１６日新装成った県庁前県民文化会館に引越し、新館オープンに備えた。１１月２日県民文化会館と県立近代美術館の開館式が行われ、こけら落しとして「第２４回県展」を開館記念特別展と銘をうち、特に県外在住郷土出身作家（日本画・洋画・彫塑）１７名の招待出品を願い盛大に開催した。会館の開館行事と重なり、観覧者すこぶる多く、２期にわたる会期中県展創立以来の入場者があった。

県展終了后本館所蔵品１５点による常設展示場を設け、入場無料として開放した。

３月には昨年度の「保田竜門展」に引続き更に研究的態度を深め、学術的レベルで世に問う抱負をもって「大夢・晩花展」を企画開催した。郷土出身作家であるが余り県民にその名が知られていないためか一般観覧者の入場は少なかったが美術関係方面に多大の反響をよんだ。

県立美術館主催及び共催展覧会一覧表

年度	展覧会名	主催	後援	会期	日数	入場者総数	内有料入場	一般料金	備考
38	第1回 県美術家協会展	県美術家協会 県立美術館	朝日新聞社	38.3.17 4.10	25	5,000		無料	美術館開館記念展
	世界美術アルバム展 世界の人々の生活写真展	県立美術館	県美術家協会 朝日新聞社	4.12 4.18	7	2,000		無料	
	国際写真サロン展	県立美術館 朝日新聞社	県美術家協会	6. 7 6.13	7	1,000		無料	
	第1回 郷土出身大家作品展 川口軌外展	県立美術館	県美術家協会	7.13 7.28	16	5,000			
	第1回 明治 大正 昭和 名作美術展	文部省 県教育委員会 県立美術館	朝日新聞社 他 5 者	10.30 11.12	14	38,000	36,915		文部省地方巡回展
	第17回 県美術展	県教育委員会 県立美術館 毎日新聞社	主管 県美術家協会 後援 和歌山県	11.23 12. 5	12	8,000		無料	会期中1日間休館
	世界国旗展	県立美術館 ユネスコ・市教委		39.1.19 1.26	8	1,500		無料	
	全日本写真サロン展	県立美術館 朝日新聞社	県美術家協会	2.29 3. 6	7	1,000		無料	
39	紀州陶磁器展	県立美術館	県美術家協会 読売新聞社	4. 1 4.19	19	3,372	3,162	100	
	国際写真サロン展	県立美術館 朝日新聞社	県美術家協会	4.24 4.29	6	1,500		無料	
	第2回 県美術家協会展	県美術家協会 県立美術館	朝日新聞社	6. 5 6.20	14	1,000		無料	会期中2日間休館
	第2回 明治 大正 昭和 名作美術展	文部省 県教育委員会 県立美術館	朝日新聞社 他 5 社	10.29 11.11	14	31,255	29,929	150	文部省地方巡回展
	第18回 県美術展	県教育委員会 県立美術館 毎日新聞社	主管 県美術家協会 後援 和歌山県	12. 9 12.21	12	8,000		無料	会期中1日間休館
	祇園南海展	県立美術館	県美術家協会 毎日新聞社	40.3.10 3.25	16	2,400	2,030	100	

年度	展覧会名	主催	後援	会期	日数	入場者総数	内有料入場	一般料金	備考
40	芦雪名作展	県立美術館	県美術家協会 産経新聞社	40.5.15 6. 6	19	約 5,000	約 4,500	120	
	第25回全日本写真サロン展 第21回全関西写真展	朝日新聞社 県立美術館	県美術家協会	7. 3 7.11	9	1,000		無料	
	第2回郷土出身大家作品展 日高昌克展	県立美術館 日高昌克顕彰会	県美術家協会 毎日新聞社	7.16 7.29	14	2,707	2,312	100	
	第3回 県美術家協会展	県美術家協会 県立美術館	朝日新聞社	8.11 8.27	14	1,000		無料	会期中2日間休館
	近代洋画名作展 特設 原勝四郎遺作展	県立美術館	朝日新聞社 県美術家協会 原勝四郎後援会	10. 6 10.28	23	7,084	6,466	150	
	第19回 県美術展	県教育委員会 県立美術館 毎日新聞社	主管 県美術家協会 後援 和歌山県	11.11 11.23	12	13,000		無料	会期中1日間休館
	ダリ・シャガール・ビュッフェ 版画展	版画展開催委員会 県立美術館	朝日新聞社 美協 友の会	41.3.26 4. 5	11	6,460	6,095	100	
41	第4回県美術家協会展 石垣栄太郎遺作展	県立美術館 県美術家協会	朝日新聞社 読売新聞社	6. 1 6.13	12	2,000		無料	会期中1日間休館
	日本伝統工芸秀作展	県教育委員会 県立美術館 日本工芸会	文化財保護委員会 県美術家協会 産経新聞社	6.22 7. 3	12	2,670	2,294	150	日本工芸会地方巡回展
	川端竜子展	竜子展開催委員会（和市・美術館・毎日新聞・竜子顕彰会）	和歌山県 他 6 者	7. 6 7.19	14	21,363	31,161 (20,614)	120	( )内は前売未入場者を除く実入場者数
	第1回美術館友の会展	美術館友の会 県立美術館	県美術家協会	8.17 8.21	5	700		無料	
	松方コレクション展	国立西洋美術館 県教育委員会 県立美術館	和歌山県 他 協賛 10者 朝日新聞 他 13社	10.15 11. 4	21	79,615	74,512	150	
	第20回 県美術展 20周年記念 地方巡回展	県教育委員会 県立美術館 毎日新聞社	主管 県美術家協会 後援 和歌山県	11.19 12.13	20	13,000		無料	会期中5日間休館

年度	展覧会名	主催	後援	会期	日数	入場者総数	内有料入場	一般料金	備考
42	第4回 国際青年美術家展 日本／アメリカ展	日本文化フォーラム 県立美術館 同展開催委員会	読売新聞社 県美術家協会 美術館友の会	42.4. 1 4.10	10	3,208	2,437	150	
	第5回 県美術家協会展	県美術家協会 県立美術館	朝日新聞社 美術館友の会	6. 6 6.18	12	1,000		無料	会期中1日間休館
	第2回 美術館友の会展	美術館友の会 県立美術館	県美術家協会	7.22 7.28	7	500		無料	
	第1回 和歌山アンデパンダン展	和歌山アンデパンダン展実行委員会 県立美術館	朝日新聞社 県美術家協会 美術館友の会	8.18 8.27	10	3,000		無料	
	開館五周年記念 富岡鉄展	県立美術館 清荒神清澄寺 大阪読売新聞社	和歌山県・和市・県美協・美術館友の会・清荒神鉄斎研究所	10.21 11. 5	16	10,169	9,610	150	
	第21回 県美術展	県教育委員会 県立美術館 毎日新聞社	主管 県美術家協会 後援 和歌山県	11.17 12. 3	15	13,000		無料	会期中2日間休館
	収蔵庫完成記念 現代洋画大家展	県立美術館	毎日新聞社 県美術家協会 美術館友の会	43.2. 3 2.12	10	4,187	3,268	150	
	友の会実技講座習作展	美術館友の会 県立美術館		2.21 2.25	5	300		無料	
	郷土出身作家 桑山玉洲展	県立美術館	産経新聞 県美術家協会 美術館友の会	3. 8 3.21	14	1,958	1,491	150	
43	吉川観方コレクション 浮世絵総合展	県立美術館	県美術家協会 美術館友の会	4.21 5. 3	13	7,058	6,510	100	
	第6回 県美術家協会展	県美術家協会 県立美術館	朝日新聞社	6. 5 6.17	13	1,200		無料	
	1968（第2回） 和歌山アンデパンダン展	和歌山アンデパンダン展実行委員会 県立美術館	朝日新聞社 県美術家協会 美術館友の会	7.15 7.21	7	1,000		無料	
	第3回 美術館友の会展	美術館友の会 県立美術館	県美術家協会	8.10 8.19	10	500		無料	

年度	展覧会名	主催	後援	会期	日数	入場者総数	内有料入場	一般料金	備考
43	第1回 勤労者美術展	和歌山県 県立美術館	県美術家協会 県労働者福祉協議会 県経営者協会	43.9.10 9.15	6	2,500		無料	
	扇絵展	県教育委員会 県立美術館 日本経済新聞社	県美術家協会 美術館友の会	9.21 10. 6	16	2,231	1,628	100	
	明治100年記念 郷土作家回顧展 明治から現在まで	県立美術館	和歌山新報社 県美術家協会 美術館友の会	10.23 11. 5	14	3,063	2,276	100	
	第22回 県美術展	県教育委員会 県立美術館 毎日新聞社	主管 県美術家協会 後援 和歌山県	11.23 12.16	18	本展 15,000 新宮展 1,500		無料	新宮地方展3日間を含む会期中2日間休館
	友の会実技講座習作展	美術館友の会 県立美術館		44.3. 5 3. 9	5	400		無料	
44	郷土出身大家展 保田竜門	保田竜門展開催委員会 県立美術館	和歌山県・県教委・毎日新聞・県美協・美術館友の会	4.18 5. 7	20	11,189	9,982	120	
	第7回 県美術家協会展	県美術家協会 県立美術館	朝日新聞社	5.31 6. 5	6	1,000		無料	
	第4回 美術館友の会展	美術館友の会 県立美術館	県美術家協会	8.21 8.25	5	500		無料	
	第2回 勤労者美術展	和歌山県 県立美術館	県美術家協会 県労働者福祉協議会 県経営者協会	9.11 9.15	5	2,000		無料	
	文化庁巡回展 明治・大正・昭和名作美術展	文化庁 県教育委員会 県立美術館	和歌山県・和歌山市 和市教委・県美協・美術館友の会	10.25 11. 9	16	9,636	8,956	150	
	第23回 県美術展	県教育委員会 県立美術館 毎日新聞社	主管 県美術家協会 後援 和歌山県	11.22 12.15	18	本展 15,000 新宮展 2,000		無料	新宮地方展3日間を含む会期中2日間休館
	友の会実技講座習作展 併設 県美術家協会色紙展	美術館友の会 県立美術館		45.2.25 3. 1	5	500		無料	

年度	展覧会名	主催	後援	会期	日数	入場者総数	内有料入場	一般料金	備考
	京都の近代日本画	県立美術館 京都市美術館	県美術家協会 美術館友の会	45.3. 8 3.23	16	1,977	1,734	150	
45	吉川観方コレクション 日本女装展	県立美術館	県美容業環境衛生同業組合・県芸能協会・美術館友の会	4.19 5. 5	17	2,091	1,773	150	
	第8回 県美術家協会展	県美術家協会 県立美術館	朝日新聞社	6. 6 6.16	10	2,000		無料	
	第5回 美術館友の会展	美術館友の会 県立美術館	県美術家協会	7.25 7.29	5	500		無料	
	第3田 勤労者美術展	和歌山県 県立美術館	県美術家協会 県労働者福祉協議会 県経営者協会	9.11 9.15	5	1,500		無料	
	近代美術館開館記念 第24回 県美術展特別展	県教育委員会 県立近代美術館 毎日新聞社	主管 県美術家協会 後援 和歌山県	11. 2 12.14	20	本展 23,000 田辺展 2,000 新宮展 1,000		無料	近代美術館開館記念展
	第4回 友の会実技講座習作展	近代美術館友の会 県立近代美術館	県美術家協会	46.2.17 2.21	5	500		無料	
	郷土出身作家 大夢・晩花展	県立近代美術館	清水町教育委員会 中辺路町教育委員会 県美術家協会 美術館友の会	3.10 3.29	20	1,590	1,041	200	

貸館による展覧会開催一覧表

年度	展覧会名	主催	会期	日数	備考
38	写真四人展		38. 9. 13 9. 19	7	
	新構造社和歌山展	新構造社 和歌山支部	9. 13 9. 20	8	
	現代画家和歌山十人展		9. 21 9. 29	9	
	書道教育研究会 和歌山市支部展	書道教育研究会 和歌山市支部	9. 22 9. 24	3	
	内藤幸子個展		10. 2 10. 6	5	
	示現会和歌山支部展	示現会 和歌山支部	10. 11 10. 15	5	
	第15回 書初会		39. 2. 14 2. 16	3	
	ペルシヤ民芸展	和歌山新聞社	3. 9 3. 15	7	
	山田三千子個展		3. 18 3. 23	6	
39	一水会出品者協会展		5. 1 5. 5	5	
	第13回 和歌山市美術展覧会	和歌山市・和市教育委員会	5. 15 5. 25	10	
	片桐牧雄個展		5. 28 6. 1	5	
	第4回 新構造社和歌山展	新構造社 和歌山支部	8. 21 8. 26	6	
	第5回 旺玄会和歌山クラブ展	旺玄会 和歌山クラブ	9. 3 9. 6	4	

年度	展覧会名	主催	会期	日数	備考
39	和歌山平和美術展		39. 9. 10 9. 13	4	
	イラスト和歌山展		9. 14 9. 20	7	
	和歌山国画会写真展	和歌山国画会	9. 19 9. 24	6	
	和歌山現代画家十人展		9. 25 9. 30	6	
	第19回競書会 和歌山支部展示会	書道教育研究会	10. 2 10. 6	5	
	内藤幸子個展		10. 2 10. 6	5	
	示現会和歌山支部展	示現会 和歌山支部	10. 8 10. 12	5	
	黎明クラブ写真展	黎明クラブ	10. 8 10. 12	5	
	ヘンリー・ヨハン・ラドルフ個展		10. 15 10. 19	5	
	西林凡石個展		10. 15 10. 19	5	
	第19回 青甲会展	青甲会	10. 15 10. 19	5	
	高等学校芸術祭美術展 県高校美術教育研究会	県高校芸術科教育連盟	11. 15 11. 19	5	
	秋の学校美術展	和市美育協会	11. 22 11. 26	5	
	日本と外国の子供の絵の展覧会		40. 1. 8 1. 11	4	
40	木下克己個展		4. 1 4. 6	6	

	海南市・長春市 合同写真展	海南市文化協会	40. 4. 17 4. 21	5	
	小野教治個展		4. 24 4. 29	6	
	南技会いけばな展	南技会	4. 25 4. 29	5	
	第14回 和歌山市美術展覧会	和歌山市 和市教委	6. 19 6. 29	10	
	グループ青砥展	グループ青砥	7. 2 7. 11	10	
	和歌山現代作家展		7. 31 8. 4	5	
	寺中靖直個展		7. 31 8. 4	5	
	和歌山旺玄美術展	旺玄会和歌山クラブ	9. 2 9. 5.	4	
	和歌山独立クラブ展	和歌山独立クラブ	9. 2 9. 6	5	
	第5回 新構造社和歌山展	新構造社 和歌山支部	9. 8 9. 12	5	
	関西フォートグループ展	関西フォトグループ	9. 11 9. 14	3	
	グループQ展	グループQ	9. 16 9. 20	5	
	示現会和歌山支部展	示現会 和歌山支部	9. 24 9. 28	5	
	青甲会展	青甲会	9. 24 9. 28	5	
	第20回市内小中学校 児童生徒競書会	和市 書道教育研究会	9. 30 10. 3	4	
	平和美術展	和市 平和美術家協会	11. 25 11. 28	4	

年度	展覧会名	主催	会期	日数	備考
	示現会チャリティ小品展	示現会 和歌山支部	40.12. 10 12. 14	5	
	一水会出品者協会展	和歌山一水会出品者協会	12. 15 12. 19	5	
	県立盲学校展示会	盲学校	41. 2. 11 2. 13	3	
	和市内小中学校書初展	書道教育研究会	2. 10 2. 14	5	
	榎本白華個展		2. 26 3. 2	5	
41	宮村泰彦個展		4. 13 4. 17	5	
	寺中靖直帯欧油絵作品展		5. 1 5. 6	6	
	中井達郎個展		5. 1 5. 6	6	
	第15回 和歌山市美術展覧会	和歌山市 和市教委	5. 14 5. 24	10	
	グループ「現」作品展	グループ「現」	7. 30 8. 3.	5	
	洋画グループ三人展	梅本 三佐子 栗栖 美登里 宮本 武	8. 24 8. 28	5	
	旺玄会和歌山クラブ展	旺玄会 和歌山クラブ	8. 30 9. 4	6	
	示現会和歌山支部展	示現会 和歌山支部	9. 16 9. 20	5	
	第21回 競書会和歌山市展	和市 書道教育研究会	9. 22 9. 26	5	
	和大グループ四人展（油絵）	和大絵画部	9. 23 9. 26	4	

41	青甲会展	青甲会	41. 9. 23 9. 27	5	
	西林凡石書作展		10. 1 10. 5	5	
	新構造社和歌山支部展	新構造社 和歌山支部	12. 14 12. 18	5	
	県和商美術展	県和商高	42. 1. 19 1. 23	5	
	中国名画美術展		1. 27 2. 5	10	有料
42	一水会出品者協会展	和歌山一水会出品者協会	5. 1 5. 5	5	
	第16回 和市美術展覧会	和歌山市 和市教委	5. 13 5. 23	10	
	橋本春光個展		6. 3 6. 10	8	
	和市小・中学校 児童生徒美術展	和市美育協会	6. 22 6. 26	5	
	全国大学書道教官書道展		6. 22 6. 25	4	
	春泥会展	春泥会	6. 28 7. 2	5	
	世界の名画そっくり展		7. 1 7. 5	5	
	草月流いけばな 集芳会幹部展	草月流集芳会	7. 8 7. 12	5	
	森田節斎遺墨展	北一夫	8. 10 8. 16	7	
	大谷史朗イラスト展		8. 11 8. 15	5	
	第8回 旺玄会和歌山クラブ展	旺玄会 和歌山クラブ	8. 31 9. 3	4	

年度	展覧会展	主催	会期	日数	備考
42	第1回 大東文化大学書道展	大東文化大学 県人会	42. 8. 31 9. 3	4	
	根来春雄個展		9. 8 9. 11	4	
	モダンアート関西作家展		9. 15 9. 19	5	
	グループ「現」洋画展	グループ「現」	9. 15 9. 19	5	
	第18回 示現会和歌山支部展	示現会 和歌山支部	10. 1 10. 5	5	
	下岡朋彦個展		10. 6 10. 10	5	
	柏井良夫陶芸 吉増達夫洋画 作品展		10. 7 10. 10	4	
	木下克巳個展		10. 7 10. 11	5	
	明楽光三郎「山の写真」展		11. 7 11. 12	6	
	高校芸術祭美術展	県高校芸術科教育連盟	11. 8 11. 12	5	
	和大絵画部展	和大絵画部	12. 8. 12. 12	5	
	アート ポスター展		43. 1. 6 1. 8	3	
	県立和商美術展	県和商高	1. 25 1. 29	5	
	県下美術サークル連合展		1. 26 1. 30	5	
43	和大絵画部二回生展	和大絵画部	4. 13 4. 18	5	

43	榎本白華滞欧作品展		43. 5. 10 5. 15	6	
	第17回 和歌山市美術展覧会	和歌山市 和市教委	5. 18 5. 28	10	
	和歌山古代文化展	県教委	5. 31 6. 2	3	
	和大絵画部三回生展 (グループ イレブン)	和大絵画部	6. 20 6. 24	5	
	春の学校美術展	美育協会	6. 20 6. 24	5	
	春泥会展	春泥会	6. 26 6. 30	5	
	和歌山同志社祭 同志社展	同志社県人会	8. 2 8. 4	3	
	第2回 大東文化大学書道展	大東文化大学 県人会	8. 2 8. 4	3	
	第4回 なにわ展	浪速短大・大阪芸大県人会	8. 8 8. 12	5	
	版画風土記 沖縄展	和歌山 ユネスコ協会	8. 21 8. 26	6	
	グループ「梯形」展	グループ 「梯形」	8. 21 8. 26	6	
	中村善種個展		8. 21 8. 26	6	
	第22回 青甲会展	青甲展	8. 29 9. 3	6	
	吉増達夫個展		8. 31 9. 4	5	
	和歌山旺玄美術展	旺玄会和歌山 クラブ	9. 1 9. 4	4	
	一水会出品者協会展	和歌山一水会出品者協会	10. 10 10. 13	4	

年度	展示会名	主催	会期	日数	備考
43	示現会和歌山支部展	示現会 和歌山支部	43.10. 16 10. 20	5	
	高校芸術祭美術展	県高校芸術科 教育連盟	11. 8 11. 12	5	
	和大絵画部展	和大絵画部	12. 12 12. 16	5	
	第2回 県下美術サークル連合展		44. 1. 15 1. 19	5	
	第16回 県和商展	県和商高	1. 25 1. 27	3	
	日本画壇中堅作家 「日美展」新作日本画		2. 7 2. 10	4	
	現代美術研究グループ フォーマティブ展		2. 19 2. 24	6	
	長尾八郎 インテリヤ クラフト展		3. 15 3. 19	5	
44	第18回 和市美術展覧会	和歌山市 和市教委	5. 17 5. 27	10	
	和大絵画部二回生展	和大絵画部	6. 10 6. 15	6	
	花王石鹸・紀陽銀行 美術クラブ合同美術展	花王石鹸・紀陽 銀行美術クラブ	6. 11 6. 15	5	
	春の学校美術展（小・中）	和市 美育協会	6. 19 6. 23	5	
	和大絵画部三回生 六人展	和大絵画部	6. 22 6. 26	5	
	第20回 春泥会展	春泥会	7. 2 7. 6	5	
	紀鷺会美術展	紀鷺会	8. 12 8. 18	7	

44	星林高校OB美術展		44. 8. 27 8. 31	5	
	旺玄会 和歌山クラブ展	旺玄会 和歌山クラブ	9. 4 9. 7	4	
	和大絵画部展	和大絵画部	9. 20 9. 24	5	
	渡辺勝彦彫刻展		9. 22 9. 28	7	
	第7回 具現展	具現美術協会	9. 26 9. 30	5	
	第1回 星墨会展（書道）	星墨会	9. 27 9. 29	3	
	第1回 北アートグループ展	北高校絵画部	10. 2 10. 6	5	
	第20回 示現会和歌山支部展	示現会 和歌山支部	10. 9 10. 13	5	
	吉増達夫 油絵 柏井良夫 陶芸 二人展		10. 10 10. 13	4	
	第1回 あくと展	グループ 「あくと」	10. 12 10. 19	8	
	第3回 新世紀美術 和歌山グループ展	新世紀美術協会 和歌山グループ	10. 17 10. 20	4	
	高校芸術祭美術展（書道）	県高校芸術科教育連盟	11. 13 11. 17	5	
	和大絵画部展	和大絵画部	12. 13 12. 17	5	
	医大美術部絵画展	医大美術部	12. 13 12. 17	5	
	第3回 県下サークル連合会		45. 1. 15 1. 19	5	
	みにきてん（現代美術）		2. 11 2. 16	6	

年度	展覧会名	主催	会期	日数	
44	美術日本刀展		45. 3. 4. 3. 6	3	
	第17回 洗心書道展覧会	洗心書道会	3. 27 3. 29	3	
45	兼田新一個展（洋）		4. 2 4. 7	6	
	和大綜合美術展 （絵写華書）	和大文化部	4. 11 4. 16	6	
	第19回 和歌山市美術展覧会	和歌山市 和市教委	5. 16 5. 26	10	
	草月流 集芳会 第4回 いけばな展	草月流 集芳会	5. 30 6. 3	5	
	第2回 絵画サークル「樹展」 （洋 はり絵 彫）	サークル「樹」	5. 29 6. 3	6	
	春の学校美術展（小・中）	和歌山市 美育協会	6. 18 6. 22	5	
	有人クラブ展 （写真）	有人クラブ	6. 25 6. 29	5	
	版画展 （シルクスクリーンによる版画）		6. 25 6. 29	5	
	春泥会展（日本画）	春泥会	7. 1 7. 5	5	
	大東文化大学 和歌山県人展（書）	大東文化大学 県人会	8. 6 8. 9	4	
	現代美術3人展		8. 12 8. 17	6	
	夏の16人展（和大絵画部二回生グループ）	和大絵画部	8. 13 8. 17	5	
	〃グループ旺美〃油絵展	グループ 「旺美」	8. 20 8. 24	5	

45	MAYU展（現代美術）	グループ 「MAYU」	45. 8. 27 9. 2	7	
	旺玄会和歌山クラブ展	旺玄会 和歌山クラブ	8. 30 9. 2	4	
	花の児童画展	農林中央金庫	9. 19 9. 20	2	
	具現展	具現美術協会	9. 23 9. 27	5	
	新世紀美術展	新世紀美術 和歌山グループ	10. 1 10. 5	5	
	浮世絵版画展	宮崎米一他	10. 1 10. 5	5	
	あくと展	グループ 「あくと」	10. 4 10. 10	7	
	示現会 和歌山支部展	示現会 和歌山支部	10. 10 10. 14	5	
	第2回 星墨会書道展	星墨会	10. 17 10. 19	3	
	高校芸術祭美術展	県高校芸術科教育連盟	11. 20 11. 25	6	
	第3回 県民文化祭美術展 （写真・生花）	県広報課	11. 20 11. 25	6	
	和歌山北アートクラブ展	北高校絵画部	12. 3. 12. 7	5	
	第3回 和歌山盆栽園芸展	和歌山盆栽園芸会	12. 4 12. 7	4	
	草月流いけばな展	草月流第一支部	12. 10 12. 14	5	
	第22回 和大絵画部展	和大絵画部	12. 10 12. 14	5	
	新構造社和歌山展（洋画）	新構造社 和歌山支部	46. 1. 7 1. 11	5	

年度	展覧会名	主催	会期	日数	
45	県政写真展	和歌山県	46. 1. 20 1. 27	8	
	県中学校技術家庭科作品展示	県中学校技術家庭科研究会	1. 29 2. 1	4	
	紀陽銀行 花王石鹸 美術クラブ合同展	紀陽銀行・花正石鹸美術クラブ	2. 3 2. 8	6	
	徳永孝衡 個展	徳永孝衡	2. 4 2. 8	5	
	関西電力和歌山支店文化際作品展示会	関西電力和歌和支店	2. 13	1	
	3人と1人展（写真・彫刻）	北村博昭	2. 26 3. 1	4	
	あめんぼ（油絵・その他）	小野教治	3. 3 3. 8	6	
	ロータリークラブ 〃友愛の家〃 写真展	ロータリークラブ 366区	3 5 3 6	2	
	和歌山県高等学校書道教員展覧会	県高校書道教育研究会	3. 6 3. 8	3	

3. 所蔵品の収集状況

本館は、所蔵作品皆無の状態で発足したが、以来8年間の収集状況は、別表1のとおりで、館所蔵品は別表2、寄託作品は別表3のとおりである。

別表1

館所蔵美術作品収集状況一覧表

区分 / 年度	購入作品						寄贈作品						寄託作品						合計					
	日本画	洋画	版画	彫刻	デッサン下絵	計	日本画	洋画	版画	彫刻	デッサン下絵	計	日本画	洋画	版画	彫刻	デッサン下絵	計	日本画	洋画	版画	彫刻	デッサン下絵	計
昭和38年度		1				1		4				4								5				5
昭和39年度		1				1	3	1				4							3	2				5
昭和40年度	1	2				3		1			4	5							1	3			4	8
昭和41年度							1	17	1			19							1	17	1			19
昭和42年度	2		11			13	1	7				8							3	7	11			21
昭和43年度				1		1	1	6	1			8	1	7				8	2	13	1	1		17
昭和44年度	1			1		2		10		5		15	1	13				14	2	23		6		31
昭和45年度							2				5	7							2				5	7
合計	4	4	11	2		21	8	46	2	5	9	70	2	20				22	14	70	13	7	9	113

別表2

所　蔵　品　目　録

日本画

No.	作者名	作品名	材質・形状	大きさ (cm)	制作年	備考
1	三村行雄	はまゆう	額装 紙本水墨	70×135		
2	三村行雄	雑賀崎風景	額装 紙本水墨	63×125		
3	三村行雄	蓮花	軸装 紙本水墨	130×46		
4	日高昌克	山峡池畔図	額装 紙本水墨	44×56		
5	中谷紀山	めざし	額装 紙本着彩	83.5×90		
6	小上南嶺	聞香	軸装 紙本着彩	87×48		
7	玉置照信	静波春日之図	軸装 絹本着彩	46×50.5		
8	玉置照信	秋晴喜鳥	軸装 紙本着彩	133×33		
9	野長瀬晩花	被布着たる少女	額装 絹本着彩	114×134	1911	第16回 新古美術品展
10	野長瀬晩花	スペインの子供	屏風 寒令紗着彩	136×110	1924	二曲　第4回国展
11	野長瀬晩花	路傍青物市	額装 紙本着彩	25.5×45.5		
12	野長瀬晩花	五月の庭	額装 紙本着彩	77×137.5	1961	

洋画

No.	作者名	作品名	材質・形状	大きさ (cm)	制作年	備考
1	石垣大喜治	紀三井寺風景	キャンバス 油彩			
2	川口軌外	少女と貝殻	キャンバス 油彩	185×288	1934	

3	川口軌外	瀞八丁	キャンバス 油彩	45×53		
4	川口軌外	港	キャンバス 油彩	115×79		
5	原勝四郎	道化	キャンバス 油彩	81×72	1947	
6	石垣栄太郎	女の顔	キャンバス 油彩	26×20	1916	
7	石垣栄太郎	自画像	キャンバス 油彩	41×32	1917	
8	石垣栄太郎	街	キャンバス 油彩	122×90	1925	全米独立美術協会展
9	石垣栄太郎	ボーナママーチ	キャンバス 油彩	147×106	1932	全米独立美術協会展
10	石垣栄太郎	キューバ島の反乱	キャンバス 油彩	181×140	1933	全米独立美術協会展
11	石垣栄太郎	女の肖像	キャンバス 油彩	35×28	1936	全米独立美術協会展
12	石垣栄太郎	抵抗	キャンバス 油彩	61×73	1937	全米アーチストコングレス展
13	石垣栄太郎	K．K．K	キャンバス 油彩	73×92	1937	
14	石垣栄太郎	強風	キャンバス 油彩	65×80	1939	
15	石垣栄太郎	恐怖	キャンバス 油彩	64×104	1940	
16	石垣栄太郎	捕虜	キャンバス 油彩	70×86	1940	
17	石垣栄太郎	地獄へ	キャンバス 油彩	105×71	1942	
18	石垣栄太郎	バーゲンセール	キャンバス 油彩	56×72	1947	
19	石垣栄太郎	男と女	キャンバス 油彩	48×96	1947	
20	石垣栄太郎	女の抵抗	キャンバス 油彩	41×51	1947	
21	石垣栄太郎	スケッチクラス	キャンバス 油彩	56×72	1947	
22	石垣栄太郎	女の勝利	キャンバス 油彩	45×52	1948	

No.	作者名	作品名	材質・形状	大きさ (cm)	制作年	備考
23	石垣栄太郎	女の哀しみ	キャンバス油彩	50× 61	1949	
24	玉置照信	徳川茂承肖像	キャンバス油彩	41× 32		
25	玉置照信	徳川頼倫肖像	キャンバス油彩	41× 32		
26	玉置照信	徳川頼貞肖像	キャンバス油彩	41× 32		
27	大歳敏秋	淡路人形	キャンバス油彩	31× 40	1963	
28	中村新次郎	鏡の前	キャンバス油彩	115× 90		
29	中村新次郎	若い女性	キャンバス油彩	90× 72		
30	飯守好雄	梅林	キャンバス油彩	89× 99	1963	
31	飯守好雄	小動岬	キャンバス油彩	37× 45	1963	
32	飯守米子	温室	キャンバス油彩	90×115.5		
33	羽山金次郎	静物	キャンバス油彩	60.5× 72	1963	
34	楠本俊治	晩秋	キャンバス油彩	90× 72		
35	中川力	ノートルダム・ド・パリ	キャンバス油彩	45× 37		
36	中川力	婦人像	キャンバス油彩	74× 62		
37	中畑卿人	へきれき	キャンバス油彩	165.5×111		
38	吉田一夫	陽炎	アクリル油彩	101× 66	1969	
39	保田竜門	自画像	キャンバス油彩	45× 38	1915	二科展
40	保田竜門	村の娘	キャンバス油彩	83×67.5	1915	
41	保田竜門	読書	キャンバス油彩	65× 53	1921〜1923	

42	保田竜門	パリ風景	キャンバス油彩	46× 54	1921〜1923	
43	保田竜門	婦人像	キャンバス油彩	66.5×44.5	1921〜1923	
44	保田竜門	裸婦立像	キャンバス油彩	81× 65	1921〜1923	
45	保田竜門	裸婦群像	キャンバス油彩	130.5×194	1926	
46	保田竜門	満州風景	キャンバス油彩	45.5× 53	1931	
47	ヘンリー杉本	カーメルハイランド海辺	キャンバス油彩	79×98.5		
48	ヘンリー杉本	セーヌ河畔	キャンバス油彩	88× 70		
49	木下孝則	バラ	キャンバス油彩	33× 24		
50	木下義謙	雪山	キャンバス油彩	38×45.5		

彫刻

No.	作者名	作品名	材質・形状	高さ (cm)	制作年	備考
1	保田竜門	アンドレの首	ブロンズ	19	1925	
2	保田竜門	裸婦立像	ブロンズ	184	1925	第12回院展
3	保田竜門	鳩をもつ女	ブロンズ	81	1948	
4	保田竜門	仰臥女	ブロンズ	15	1948	
5	保田竜門	うずくまる女	ブロンズ	35	19.47	
6	保田竜門	パンとニンフ	陶土焼成	305	1945	
7	建畠大夢	思師の顔	ブロンズ	35	1939	東方彫塑院展

版　画

No.	作者名	作品名	材質・形状	大きさ (cm)	制作年	備考
1	マツシモ・カンピリ	はたおり	リトグラフ	38× 46		
2	浜口陽三	毛糸とトリコット	エッチング	24.3×51.9	1965	
3	浜口陽三	卓上静物	エッチング	29×36.2		
4	浜口陽三	コップ	エッチング	29.2×39.4		
5	浜口陽三	19と1つのサクランボ	エッチング	23.2×53.5	1965	
6	浜口陽三	花と蝶	エッチング	11.4×11.4		
7	浜口陽三	テントウ虫	エッチング	5.6× 5.8		
8	浜口陽三	黒いサクランボ	エッチング	19.6×24.5		
9	浜口陽三	ざくろ	エッチング	29.2× 44		
10	浜口陽三	貝	エッチング	9.7× 7.7		
11	浜口陽三	カレイとブドウ	エッチング	29.3× 39		
12	浜口陽三	ひとで	エッチング	9.6× 7.8		
13	浜口陽三	赤い鉢と桜桃	エッチング	47× 62		

素描・下絵

No.	作者名	作品名	材質・形状	大きさ (cm)	製作年	備考
1	石垣栄太郎	壁画画稿	額装・紙・木炭	217×300	1934	
2	石垣栄太郎	壁画画稿	額装・紙・木炭	217×300	1934	
3	石垣栄太郎	男の半身デッサン	額装・紙・鉛筆	40×32.5		

No.	作者名	作品名	材質・形状	大きさ (cm)	制作年	備考
4	石垣栄太郎	裸婦デッサン	額装・紙・鉛筆	36× 43		
5	野長瀬晩花	夕日にかえる漁夫下絵	屏風・紙・淡彩	169×360	1920	
6	野長瀬晩花	婦人像デッサン	額装・紙・淡彩	18×10.7	1922	
7	野長瀬晩花	水汲みにゆく女画稿	額装・紙・淡彩	52×55.5	1926	
8	野長瀬晩花	海近き町の舞妓画稿	額装・紙・淡彩	30.5×40.7	1926	
9	野長瀬晩花	少女習作	額装・紙・着彩	75.5× 41	1924	

別表3

寄　託　品　目　録

洋　画

No.	作者名	作品名	材質・形状	大きさ (cm)	制作年	備考
1	原　勝四郎	瀬戸風景	ボール紙 油彩	53× 45		原厚子
2	原　勝四郎	婦人像	ボール紙 油彩	60× 73		原厚子
3	原　勝四郎	厚子像	ボール紙 油彩	65×52.5		原厚子
4	原　勝四郎	静物	ボール紙 油彩	45× 53		原厚子
5	原　勝四郎	母子像	ボール紙 油彩	53× 65		原厚子
6	原　勝四郎	陽子像	ボール紙 油彩	53× 65		原厚子
7	原　勝四郎	裸像	ボール紙 油彩	65× 53	1947	原厚子
8	ヘンリー　杉本	Weather Station	キャンバス 油彩	96×130		作者
9	ヘンリー　杉本	Coit Tower	キャンバス 油彩	130× 97		作者
10	ヘンリー　杉本	Foith love Hope	キャンバス 油彩	162×130		作者
11	ヘンリー　杉本	Young Amerians	キャンバス 油彩	162×130		作者
12	ヘンリー　杉本	Tenament New york	キャンバス 油彩	162×130		作者
13	ヘンリー　杉本	Paris in Autamu	キャンバス 油彩	140×130		作者
14	ヘンリー　杉本	South Fery Newyork	キャンバス 油彩	162×130		作者
15	ヘンリー　杉本	Longing	キャンバス 油彩	162×130		作者
16	ヘンリー　杉本	Young master	キャンバス 油彩	162×130		作者
17	ヘンリー　杉本	寺院のみえるピーエー村	キャンバス 油彩	79× 99		作者

18	ヘンリー　杉本	クロイスター背景	キャンバス 油彩	72× 60		作者
19	ヘンリー　杉本	モレー洗濯場	キャンバス 油彩	90× 71		作者
20	ヘンリー　杉本	パン配達娘	キャンバス 油彩	90× 70		作者

日本画

	作者名	作品名	材質・形状	大きさ (cm)	制作年	備考
1	玉置照信	久地の梅	屏風・紙本 着彩	167×168		二曲一双 世耕政隆
2	岩瀬広隆	山水図	屏風・紙本 着彩	164×363		六曲一双 植野増子

4. 美術館友の会活動状況

美術館は、美術展覧会を通じて、文化振興、社会教育を図るのが本来の姿であるが、あわせて、美術教室のような事業を行うことによって、より一層の効果を期待することができるのである。

本館も他府県の美術館の例にならない、昭和４０年１０月に美術館友の会をつくり、各種の講座を設けて、活発な活動を続けながら今日に至っている。

他の美術館では、この種講座を直営で行っているところもあるが、経理その他いろんな面で、外郭団体の事業とする方が便利であることから、友の会の事業としているので、館の事業と表裏一体の関係にある。当講座開設上の留意すべき点として、民間に行なわれている美術教室や、塾等と競合しないこと、全くの初心者をある程度まで指導するものであって、専門家養成の機関でないこと等である。

このため、美術関係の全分野にわたることなく、比較的他に支障を及ぼさない科目に限定したこと、受講者が、固定することなく、ある程度の新陳代謝が常に行われることを配慮した。

幸い民間のこの種事業との摩擦も起らず、会員も、年間に約1/3程度の流動がスムースに行われている。

友の会会員の異動状況は、次のとおりである。

年月日　現在	賛助会員	普通会員	計	過去１年間の異動	
				入　会	退　会
４０　１２．３１	５６人	３６８人	４２４人	人	人
４１　４．３０	７９	４３５	５１４		
４２　３．３１	１０８	６９９	８０７		
４３　３．３１	１０２	６４３	７４５	１７０	１９４
４４　３．３１	９４	６４３	７３７	１２５	１３３
４５　３．３１	９０	６２２	７１２	２２２	２４７

各講座の概要は次のとおりである

(1) 美術鑑賞講座

絵画、彫刻、工芸のみならず、建築、庭園等、幅広い美術に関する講義や展覧会その他の現地見学によって、趣味と教養をたかめ、美的感覚を養う目的で、美術館創設間もなく「美術観照のつどい」という会が生まれ、二年近く、例月、講座をもっていたのであるが、友の会発足により

美術鑑賞講座となり、今日に至っている。

この講座の盛衰は、一つにかかって、講師に適当な人が得られるか否かにある。

講座開設状況

年　度	講座開催回数	内訳		
		講　義	展覧会見学	その他の現地見学
昭和４０年度	６	５	１	
昭和４１年度	１１	８	１	２
昭和４２年度	１２	８	２	２
昭和４３年度	１２	１０	１	１
昭和４４年度	１２	９	２	１
昭和４５年度（９月まで）	４	１	２	２
計	５７	４１	９	８

(2) 洋画実技講座

初歩の油絵を教え、趣味として画筆を握る人達の集まりで、館発足の翌３９年春開いた写生会が契機となって、サンデーアートクラブが組織され、以来例月集まり、絵を描いてきたが、友の会洋画講座となり発展的に解消、今日まで継続している。

講師は、県美術家協会洋画部の県展審査員の中から毎月交替で指導願っている。今日まで既にこの講座出身で、中央展に入選し、専門的に指向する人も出ている。

講座開催状況

年　度	講座開催回数	内訳			備　考
		室内写生	野外写生	講　義	
昭和４０年度	５	３	１	１	
昭和４１年度	１７	９	８		
昭和４２年度	１２	７	５		
昭和４３年度	１１	６	５		
昭和４４年度	１２	４	８		
昭和４５年度（８月まで）	９	５	４		裸婦デッサン講座新設
計	６６	３４	３１	１	

(3) 写生実技講座

写真の初歩の技術を教え、美術作品としての制作指導をする講座として、友の会発足後新たに開設し、今日まで継続している。昭和44年度にカメラの扱い方から教える写真入門講座をもったが、受講者が少なく成果があがらなかったこと、あるいは会員が固定しやすい等、他の講座に比してその運営にむつかしい点がある。

講師は、県美術家協会写真部の県展審査員に交替で委嘱している。

講座開催状況

年度	講座開催回数	内訳 講義	内訳 撮影会	内訳 コンテスト作品指導	備考
昭和40年度	3	2	1		
昭和41年度	11	6	3	2	
昭和42年度	15		3	12	
昭和43年度	12	2	1	9	
昭和44年度	18	4	4	10	初級，上級に分けて別に開催
昭和45年度（8月まで）	10		5	5	月例コンテストと撮影会を毎月開催
計	69	14	17	38	

(4) 陶芸講座

自ら制作することによって、そのよろこびを味わうとともに、陶磁器の鑑賞眼を養成する一助にと、初歩の楽焼きを試みに始めたのが昭和41年である。その後新規の受講希望者があとを絶たず、講座は中止することなく今日に至ったが、本講座も鑑賞講座と同様、講師を委嘱するのに適任の方が少なく、その良否は講座の盛衰に直接つながるものである。

講座開催状況

年度	講座開催回数	内訳 型造り	内訳 焼上げ	内訳 窯元見学	内訳 展覧会見学	内訳 講義	備考
昭和41年度	10	7	3				
昭和42年度	11	7	3	1			
昭和43年度	21	10	10	1			初級・上級にかける
昭和44年度	21	9	9		11	2	〃
昭和45年度	9	4	5				〃（8月まで）
計	72	37	30	2	11	2	

(5) 日本画実技講座

早くから、講座開設の要望があったが諸般の事情から発足が遅れ、ようやく昭和45年度より新たに開講。

講師は、美協日本画部の中から交替に指導願っている。

講座開催状況

年度	講座開催回数	内訳 南画	内訳 写生画	備考
昭和45年度	5	4	1	（8月まで）

(6) 臨時講座

常設講座の外に臨時講座として、次のとおり開催した。

年度	講座名	開催回数	備考
昭和42年度	七宝実技講座	3	七宝焼の制作実技を実地に習得した
昭和43年度	版画実技講座	2	年賀状を主題として版画の描き方、作り方を実地に習得した

5. 美術館運営協議会

開館以来、県立美術館では、館長の諮問機関として、運営委員会と専門委員会を設置し、館の全般的な運営に関しては、運営委員会、展覧会の企画、開催等の専門的事項に関しては専門委員会の意見を聞き、美術館活動をすすめてきた。

昭和43年秋、従来の運営委員会の構成が、県関係者に偏重していること。

専門委員会の審議内容が専門的事項よりも館の運営全般について行なわれることが多い等の理由で両者を運営協議会に一元化し、広く各界、各層の意見を反映できるよう改組した。

さらに昭和45年、委員の任期満了を機会に、博物館法に準じて、委員の委嘱を館長から教育委員会の任命に変えることにし、また、近く本県に博物館の設置が予定されており、本館は、近代美術館として運営してゆくことに決ったため、これに伴ない運営協議会委員の構成を改めた。

昭和38年度

運営委員会

会長	副知事				
副会長	教育長				
委員	総務部長	企画部長	教育次長	総務部次長	企画部次長
	美術関係者代表（県美術家協会長）				
幹事	財政課長	総合調整課長	社会教育課長	財政課長補佐	
	総合調整課長補佐	総括主計員	社会教育課長補佐	総括社会教育主事	

専門委員会

古美術関係	栗栖安一	田中敬忠	中沢哲夫	山口孫一	和中金助	和田有玄
近代美術関係	明楽光三郎	宮下橘堂	木下克巳	寺中靖直	小野教治	高木閑堂
	樋口弘之	遠藤帰一	古村徹三	安藤直路		

昭和41年度

上記専門委員の外　天石東村　山東光風　寺口関山　三井淳治　四氏を加える

昭和43年度

運営協議会委員

明楽光三郎	天石東村	安藤直路	榎本長平	遠藤帰一	小野教治	川瀬浩
木下克巳	栗栖安一	吉村徹三	山東光風	杉本義夫	鈴木善次郎	
高木閑堂	田中敬忠	玉井一郎	寺口関山	寺田健治	寺中靖直	中沢哲夫
樋口弘之	三井淳治	宮下橘堂	室谷文男	山口孫一	山本智教	吉田昇三
脇村正太郎	和中金助					

昭和45年度

運営協議会委員

明楽光三郎	川瀬浩一	木下克巳	山東光風	杉本義夫	高木閑堂	玉井一郎
寺田健治	出水清治	楠見勝寛	尾藤昌平	室谷文男	森栄次郎	山口孫一
脇村正太郎						

和歌山県立美術館運営指針

（昭和４２年６月）

目　　次

1. 基　本　方　針
2. 美術館所蔵品の収集
3. 美術館主催展覧会の開催
4. 美術関係諸団体と共催又は後援の展覧会の開催
5. 貸し室による展覧会の開催
6. 県美術展（県展）の開催
7. 外郭団体について
8. そ　の　他

―は　じ　め　に―

県立美術館設置の目的は、美術品を収集し、保管しまたは展示して一般公衆の観覧に供するとともに、芸術文化の向上に資するための諸事業を行うことにあることは、美術館設置および管理条例に明示されているところであるが、創立後、日なお浅い当館として将来へのヴィジョンを画き、毎年度の事業計画および日常の運営活動をこの指針によって行い、特色ある美術館として内容の充実をはかり、もって県立美術館設置の目的を達成しようとするものである。

―基　本　方　針―

およそいずこの美術館にも、その設立に由来して、それぞれ特色をもつものであるが、和歌山県立美術館としては、本県独自の特色をうちださなければならない。

地方の美術館は、その地方の生んだ美術作家を紹介顕彰する使命があると思われるが、その意味で郷土出身の先人、物故作家の作品を収集保存し、また展覧会を開く等して広く県民に展観の機会をつくり、その業績を紹介しなければならない。

また県内における美術愛好家の秀れた収集所蔵品も限られた一部の人達だけの観賞に終ることなく広く一般公衆の観覧の場をつくることも美術館の任務の一つであろう。

地方の美術館は、所蔵展示する作品、展覧会の観客その他美術普及活動の対象がほとんどその地方に限定されることはやむをえないことであるが、そこにまた地方的特色を生かした意義がある。

しかし、文化交流のはげしい今日、いたずらに地方的運営にのみ閉じこむことなく広く全国的視

野に立って世界の美術界の流れや動向を察知して、地方のそれに新風を吹きこむことを忘れてはならない。

こうした意味において、所蔵品の収集、展覧会の開催、その他の美術館活動には地方色を基盤としてさらに全国的スケールをもつ運用をとり入れることを基本方針とする。

またおよそ美術館という名称の施設であるからには常に美術品が展示されていることが立前であり、一般県民の期待するところであろう。

したがって、館が主催する展覧会の他は、できるかぎり数多くの展覧会を企画し、誘致することに努め、あるいは館所蔵品の展示等をして、作品入替や休館日を除いてはいつも展観が行われていることが理想である。

2. 美術館所蔵品の収集

美術館としての第一の使命は自館に美術作品を所蔵し、常時これを陳列展示して一般の観覧に供することにあるが、本館は創設時、所蔵品皆無から出発している。

その後県費による購入と特志家の寄贈によって逐時増加しているが、これを収納する倉庫がなくそのため本年度約３０坪の収蔵庫を建設しょうと工事を進めており、完成すれば、相当数の美術品の収蔵が可能となる。したがって今後所蔵品の収集に目標を置き、最大の努力をはらわなければならない。

所蔵品の収集にあたっては、ただ漫然と美術品を集めればよいということでなく、特色ある系統だった作品を重点的に収集することが望ましい。ことに貴重な公費をもって購入するにあたっては充分検討し効果的な作品選定をしなければならない。

A　購入による収集

およそ美術品には絵画その他いろいろの美術部門にわたる作品があり、また制作年代によって古美術、現在美術に分かれる等の複雑多岐なものを、限られた県費で購入することは、きわめてその範囲を限定せざるを得ない。

総じて古美術展はすでに今日まで骨とう的価値によりその価格廉価でなく、またいわゆる大家の作品は非常に高価なため、本県の現況予算では購入所蔵は至難であろう。したがって主として絵画関係の県出身または県内居住その他何等かの関係で本県とつながりがあり、作家として一家をなした方の作品を永久に伝えるとともに郷土の文化向上に資するというその作家または遺族の郷土愛に期待して、特に限られた予算の範囲内で譲り受けるよう努力する。

また作家の選定にあたっては美術館専門委員会（以下専門委員会という）の意見によって決定する。

B　寄贈による所蔵

現在わが国には、個人が収集したものを、死後、美術館に寄贈する風習は少ないが、欧米風に美術品コレクションを美術館に寄贈する例も出ることと予想されるので、これの受け入れについて積極的に取り組むものとする。

C　委託による所蔵

収蔵庫完成のうえ保管の委託をうけ、適時展観を行うことを原則として、専門委員会の意見をきき、県内所蔵家に委託を勧奨する。

委託保管にあっては、絶体亡失、損傷等の事故の絶無を期し、その取り扱いに万全の注意を払うものとする。

3.　館主催展覧会の開催

美術館が主催して行う入場料を徴収して行う展覧会（以下、有料展という）は、毎年２回～３回を年度当初に企画して、専門委員会の意見をきき決定し当初予算に計上する。年度当初の企画の定まらない場合といえどもなるべくすみやかに決定するものとする。

有料展の内容は、古今を通じての美術名作品を展観して入場料を徴するものであるが、年間計画においては一部門に偏しないよう適当に組み合せるとともに、興味本位なものでなく、教育的効果を考慮して展示作品を決定しなければならない。またなんらかのテーマをもちうる作品の選定に心掛け、無秩序な作品の配列におちいらないよう配慮する。

入場料金については２００円をこえない範囲内でその都度知事が定めることになっているが、その展覧会の所要経費と入場予定人員によって算定し知事の決裁をうける。

入場料金の減額割合はつぎの比率による

区　　分	当　日　券	前売・団体等
一　　般（略称　大人）	１００	７０
大学・高等学校学生（　〃　学生）	７０	５０
中学校・小学校生徒（　〃　小人）	５０	３０
未就学児童（幼稚園児を含む）	無　　料	

註　１）大学・高等学校学生の範疇には、学校教育法第８３条に掲げる各種学校に在学するものを含む

２）計算の結果１０円未満の端数のでるときは四拾五入により１０円単位にするものとする

３）要保護家庭の生徒の入場料は学校側からの申出によって免除するものとする。

4.）働く青少年（２０才未満に限る）の入場料金は、雇傭主の証明等により確認できるときは、学生の料金によることができる。

有料展の所要経費は必要最少限に切りつめ、なるべく低廉な入場料金とする。

展覧会の広報は少ない経費で効果のある方法を採用するが、美術展覧会の品位を傷つけるような手段はさける。

借用出品作品の輸送には専門の美術品輸送業者と運送契約をするを原則として、梱包、輸送、展示、撤収等の取り扱いには万全の注意をはらい、損傷等事故の絶無を期することはもとよりであるが、必要があれば、作品の輸送には適当な額の損額補償保険に加入するものとする。

展覧会開催中は館内外の警備は特に厳重にし、不測の事態の発生に充分警戒する。

展覧中の会場には専任の監視員をおき、展示作品の保全と会場内の秩序維持に当るものとする。

会場内での写真撮影（主催者の許可した報導関係を除く）、万年筆の使用、その他展示作品に危険をおよぼすと認められる物品の持ち込みを禁止する。

4.　美術関係諸団体と共催または後援の展覧会の開催

あらかじめ開催見込のたてられないもので突発的に具体化するもの、あるいは他団体との共催等との関係で館単独主催とできないもの等の場合には専門委員会の決定により、展覧会開催委員会によって臨時に有料展を開催することができる。この場合、収支のバランスに特に留意し、不測の欠損等の生じないよう万全を期する。

その他、関係諸団体が企画する入場料を徴しない展覧会を美術館が共催または後援として加わる等して有益な展覧会をできるだけ多く開催するよう努力する。

5.　貸室による展覧会の開催

各作家の個展、グループ展、各学校関係の美術展覧会の会場借用申込みについては積極的に協力して利用の便をはかるものとする。

その他の展覧会の会場借用申込みについては、一応専門委員の意見をきく等して、その内容を検討し、美術館使用にふさわしいものに貸室を許可する。

貸室による館の使用については「和歌山県立美術館使用規則」に詳細規定されているところでその条項を尊守するよう注意する。

貸室料は昭和３９年県告示第４３９号に規定されているところであるが、必要があると認めるときは、使用規則第２条第２項の規定にもとずき、条件をつけ、または保証人をたてさせることができる。

6. 県美術展覧会（略称県展）の開催

県展は、２０年をこえる歴史をもつ行事として、毎年県予算に委託費を計上し、和歌山県美術家協会に事業委託するものであって、その執行は、同会の特別会計予算に計上し、展覧会の運営は、同会が担当するものとする。

県展は、毎年当館のみで展示することが例となっているが、本県の地域的な制約から、出品者および観客が紀北に偏在することになるので、できる限り紀南地方にも移動展覧会を企画する。

7. 外郭団体について

県立美術館の外郭団体として、和歌山県美術家協会および和歌山県立美術館友の会があるが、いずれも事務局を美術館内におき、事務局員も県美術家協会専任書記を除いては、美術館職員が、地方公務員法による職務に専念する義務の免除をうけて兼務するものであって、その運営については、美術館本来の業務と密接不離の関係にある。

すなわち美術館設置の目的の一つである芸術文化の向上に資するための諸事業に含まれるものであるから、外郭団体の業務といえども本来の業務となんら軽重があるべきでない。

A　和歌山県美術家協会

本会は、県内美術作家をもって構成し、本県における美術の振興をはかり、会員相互の密接な連けいと研さんをはかるを目的とするものであるから、恒例の県展、美協展の開催の他、つとめて研究会、講演会等を計画して、本会の目的達成に努力する。

B　和歌山県立美術館友の会

この会は、美術の鑑賞研究、制作指導、美術館活動の援助により、県内における美術文化の向上を目的とするものであって、いわゆる美術人口の増加充実をねらいとするものである。

したがって芸術文化の普及のうえから本会の強力な発展が望ましい。

友の会の事業内容としては、どんなよい企画、行事であっても継続してくりかえすとき、自からマンネリズムにおちいり不振となるので、事業活動には、常に新らしいアイデアをとり入れ、新鮮味を保つことが必要である。

機関誌〝美術館だより〟は友の会の連絡機関であるとともに県立美術館の広報誌として、きわめて有効であるので、今後継続させなければならない。

8. そ　の　他

当館は設立当初、博物館法による博物館相当施設として、国庫補助をうけて建設されたものであるが、いまだにその資かくに欠けるところがあって、同施設として登録されていない。

その主なものは(1)館に所蔵美術品がないこと　(2)博物館法による学芸員のないことである

(1)の問題は、創設後今日まで、購入、寄贈により逐次増加しまた県案の収蔵庫建設により略々充実できる見通しにあるが、　(2)の学芸員設置は今後の課題である。

今後、内容の充実をはかり、すみやかに登録施設となるよう努力しなければならない。

職　　員

1. 現　職　員

			着任年月
館　長		渡辺光男	46. 4
次　長		笹尾　猛	40. 6
次　長		高　巖	46. 4
庶務課	庶務課長	吉田禎之	43. 4
	主　事	辻本介彦	46. 4
	技　師	松下勝行	38. 4
事業課	事業課長	三輪　茂	45. 8
	主　事	南川諄一	39. 4
	学芸員補	酒井哲朗	45. 12
(非常勤)	事務嘱託	和高伸二	42. 10

2. 旧　職　員

館　長（併任）		大橋正雄（副知事）	38. 4～40. 3
		中谷英雄	40. 4～44. 8
		前田譲一	44. 8～46. 3
次　長		清水七郎	38. 4～40. 6
事務長		森下貢行	38. 4～38. 6
	(39/4より庶務課長)	石垣貞雄	38. 6～43. 3
事業課長		阪口大輔	39. 4～40. 3
		杉原郁男	40. 4～43. 9
		輿水吾郎	43 9～44 10
		園部　通	44・10～45. 8

庶務課主事		上沼多子	38	4～39	3
		中村芙蓉子	39	4～41	3
		泉谷尚子	41	4～42	3
		三堀　明	42	3～44	3
		五味義明	44	4～46	3
	用務員	青山清元	38	4～45	10
(非常勤)	事務嘱託	栗栖安一	38	4～40	3
		吉田留信	40	4～42	2
		酒井哲朗	44	3～45	11